夕刊
磐城時報
十九日
福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行　印刷人　岡田弘成
福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十四
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金卅錢
廣告料一行十二字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

平町を四部に分け 公會堂の寄附募集
戸數割百圓以上の人から 四萬圓を募集

平町公會堂建設募集に關する町會協議會は十八日開かれたが、協議の結果範圍を廣めて特別戸數割百圓以上を納めてる者百四十四名から約四萬圓を目標に募集する事となり、分擔區域を左の如く決定し愈々募集に着手した、一月末日迄には募集を完了する筈である。

△四丁目、五丁目、新川町、月見町、大工町、立町、鎌田町（井上、松崎根本、多田井、猪狩、荒川、鈴木）

△長橋町、研町、古鍛冶町、紺屋町、材木町、鍛冶町、（萩原、川崎、馬目、吉田、吉村）

△中部一丁目、二丁目、三丁目、南町、大町（小野、關內、小松、坂本、吉田）

△田町、南白銀町、搔搥小路（野崎、堀、高橋、酒井、綠川）

△北部八幡小路、、久保町、胡摩澤、北目町、舊城跡、北白銀町、仲間町（會川、花澤、佐々木、新井、吉田、佐藤）

平町の土木豫算 總額三萬四千圓
工事個所實査

平町明年度の土木工事費は總額三萬四千圓で、今年度より約千圓の增加で十八日土木委員會に附議した結果十九日土木委員一同が工事施行個所の實地踏査を行つた、尙ほ花時の藝妓屋組合總會、演藝場に對しては昨年同樣百五十圓を補助する事になつた。

石城町村長會 役員決定

此の程開かれた石城町村長會總會で改選された役員左の如し。

△支會長青沼鋒太郎（平）副支會長伊藤淺之助（飯野）評議員古川傳一（植田）金成淺治（好間）櫛田末次郎（下遠野）鈴木藤治郎（豊間）志賀直哉（鹿島）石川德壽（湯本）沼田濱之助（內鄕）金成欽次（錦）新妻盛（四倉）草野常彌（平窪）

又優良町村視察員は渡邊、平の兩町村から派遣する事になつた。

軍旗奉讃會 寄附割當額

步兵第二十九聯隊軍旗奉讃會は軍旗拜受記念式典の協贊、講演會、映畫會の開催若松陸軍墓地墓前祭及び遺族慰安等の事業を以て今回結成されたが、本郡下の事業資金割當左の如く決定した。

泉九四圓、渡邊三四、植田一二一、山田五九、錦八七、勿來一五七、上遠野七六、入遠野五八、川部六八、田人、荷路夫、貝泊、石住五九、飯野六五、夏井四八、高久四八、豊間五四、江名九三、平六二二、小名濱一八四、玉川五六、磐崎一〇八、湯本二三一、內鄕四一六、好間一八一、赤井一〇二、永戸箕輪五〇、澤渡、三阪六三、鹿島四四、神谷六二、草野八七、大浦六九、四倉一二一、大野六九、平窪五七、上下小川六八、川前四二

計　三、七五八圓

山文事件の收容者 全部有罪と決定
公判は二月上旬

窃盜贈賄、私文書僞造行使詐欺橫領といふ罪名で平刑務所に收容されてゐる山田文一氏事件の關係者山田文一、同茂一郎、店員加藤重義、內藤七郎、金澤四郎、山口馬太郎、宮下勇二・磐城セメント四倉工場岡田仙等八名の取調べは十八日終了、何れも有罪と決定し起訴された。公判は來月二、三、四の三日間平區中島判事、櫻井檢事係りで開延される。

▲磐炭寒稽古

內鄕村磐城炭礦武道會では二十一日から三十日まで毎日六時から九時まで寒稽古を行ふ。

▲目白啼合會

平春珍會では二十三日平町田町白土謠曲稽古所で目白啼合會を開く。

看護婦の逢曳 藤田屋から檢擧

去る十八日夜平町田町藤田屋旅館事鈴木タメ方に夫婦と稱して泊り込んだ不審の二人連れを平署で調べた處男は東京市外青梅町西分町紙工品商吉川治作方雇人宇都木善三郎（三二）で、女は相馬郡陶田町磯山醫療院小塚サトヨ方看護婦山形縣西置賜郡窪田生れ小坂トミ（二七）で女が上京中戀仲となつたもので男は女に會ひたさに前夜電報で女を誘ひ出したもの、氏名詐稱で目下平署に留置中である。

毒藥を盛つた酒 青年自殺を計る

大浦村大字上仁井田字前原富作孫仕立職新妻健次郎（二四）は十五日午後七時半頃自宅で酒の中に昇尿水を入れて飲み自殺を計り苦悶してゐるのを家人が發見、手當中であるが生命危篤である、原因は神經衰弱の結果である。

平町公會堂 建築費寄附者
（その一）

一萬圓	三井榮一
五千圓	諸橋久太郎
二百圓	青沼鋒太郎
二百圓	野崎滿藏
二百圓	坂本隆藏
二百圓	關內正一
百圓	井上茂作
百圓	酒井寅之助
百圓	酒井清

計一萬六千百圓

▲好間の火事

好間村北好間字籬原炭礦坑夫矢吹助太郎（五一）方から十八日午後二時頃發火、一棟二戸の屋根八坪を燒いて間もなく鎭火した、原因は煙突の過熱で損害六十圓である。

豊間村長 選奬銀杯

豊間村長鈴木藤次郎氏は多年統計事務に從事し功績顯著で來月十一日の紀念日をトし島田農林大臣から選奬銀杯を授與される。尙ほ川前村調査員白土廣衛氏も同日木杯を授與されると。

湯本の火事 小兒の弄火

十八日午後四時半頃湯本町上町八〇野菜商大井川正巳（三六）方から發火したが間もなく鎭火した。原因甥の馬垣義吉（十六）假名が風呂場煙突の火を弄んだためである。

鑛業稅 納入成績

平稅務署管下の鑛業稅は採堀二萬七千四百六十八圓六十錢、試堀一萬四千二百五十五圓、合計四萬一千七百二十三圓六十一錢であるが昨年十二月末の同稅納入成績は左記の如く期限內の納入步合成績に於て六割八分九厘、（前年は三割六分六厘）試堀に於て八割五分一厘（前年二割六分）で非常な成績を見せてゐる。右は炭礦の好景氣を物語るものでもあるが、十年度は石炭王國の磐城炭礦が納期內に納めなかつたのを本年は住吉坑の水沒に相次へで綴坑の出水に際會したる大難に遭ひながら期限內に納入されてゐるのが特に目立ち好步合は其の爲めによるものが多い。

▲採堀稅二七四六八圓六〇錢、期限內納入一八九四〇圓二〇錢▲試堀稅一四二五圓〇一錢、期限內納入一二一三六圓四九錢

▲搜索願

秋田縣秋田市大舘町生れ勝次二男芳賀助治（二四）は昨年四月北海道樣似郡似村鐵道人夫になると稱して出かけたまゝ行衛不明となつたが、內鄕村宮で坑夫をしてゐる實兄三郎（三〇）方へ立寄るらしいからと十九日父親から平署に搜索方を願ひ出でた。

ライトインキ
大景品付
特賣大賣出し
ニオンス入）金三十錢）御買上の方へ抽籤にて左記景品進呈
一等　ライト萬年筆……一本
二等　ライト二色シャープ　ペンジル　一本
三等　ライト自由日記……一册
四等　セルロイド　ポケツトカレンダー　一個

コンポーク
塩豚
平町田町
三二三屋
電話三二三番

女中さん　至急入用
年齡問はず
平町二丁目
大村屋旅館
電話一七五番

平町田町（電話五一三番）
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科小兒科　外科花柳病科
耳鼻咽喉科　レントゲン科

魚清自慢の
なべ料理

鯛ちり　五十錢　かきなべ　三十錢
鯛なべ　五十錢　ねぎまなべ　三十錢
鱈ちりなべ　三十錢　煮込なべ　三十錢
ちりなべ　三十錢　鳥なべ　三十五錢
はもなべ　三十錢　牛なべ　三十五錢
あんこはべ　三十錢　豚なべ　三十五錢
いかなべ　三十錢　吸なべ　三十五錢
よせなべ　三十錢

えび天丼……三十錢
えびフライ……二十五錢
えび天ぷら……二十五錢
あんこもず……十五錢
かき酢……二十錢
かきフライ……二十錢
キントンあります

平三警察署通り
魚清食堂
電話六三三

優秀なる専門技術
完備せる試験設備
モートル
變壓器修理工場新設
平町月見町
合資會社　佐藤鐵工所
電話三六二番

外科一般　レントゲン科
内臓外科　泌尿器科
北川外科
（血液檢査毎日）
イツデモ入院出來マス
平町新川町二七（諸橋醫院跡）
醫學博士　北川芳夫
技師　小林良次
電話四六四番

豆炭特賣
一、品川豆炭　大袋五貫匁入　金七十五錢
小袋壹貫匁入　金二十錢
品質豆炭界ノ最良品
壹袋カラ配達致シマス、ドラゾ御用命願ヒマス
平驛前
電話三七番
阿部石炭商店

かまぼこ製造
折詰
お惣菜用さつま揚・吉原揚
平町一丁目
魚多喜
電話一四一番

魚召すから
ヒノマル凍魚
鯛　マナ鰹　ワカサギ
エビ　甘鯛　帆立貝
魚　カナ頭　うに貝燒
日本水産一手特約（電三八・三一六番）
卸小賣　平製氷會社
配達六尾一箱
出來次第急ゞ參上
魚岡屋
平町五二八番

◎新鮮な冷凍貝燒あります
吉田眼科醫院
平町紺屋町（電話六八番）

互融會事業近況
融通報告（至十二月卅一日）現在
會員數　五、九三七口
世帶數　四、〇一〇戸
積立金五三・九八一・二一錢
融通數　一、一三一口
融通金額七〇・〇七五・七〇
融通金回收高　七・二四八・三〇

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修養講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勤儉日積立金ノ奬勵
一、小資本金ノ相互融通

太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所　福島縣平町搔揶小路一番地
小名濱方部　湯本方部
小名濱町古港　湯本町天王崎
菊田方部　相双支部
植田町臺町　原町東一番町

開業廣告
歯科一般
平町田町（安濟醫院向）
齋藤醫院
東京歯科醫學士　齋藤賢三

干やなぎ
いか切込
の御注文は
是非　仙
魚店へ
美味…体裁優美は當店のモットーです
鰹節・塩辛
鮮魚仕出し
丸仙
電六六二番

謹啓加藤丈夫豫而病氣療養中の處藥石効無く十七日午前六時半死去致候間此段御通知申上候　敬具
追而葬送の儀は來る二十日午後一時自宅出棺平町松堂院に於て佛式相營可申候
一月十七日
嗣子　加藤政英
親戚總代　加藤正保
堀江正茂
森本盛一
板橋長次郎
友人總代　猪狩守
青沼鋒太郎

開院
皮膚科專
泌尿器科
花柳病科門
診療　午前八時ヨリ
時間　午後九時マデ
平町田町（山内醫院跡）
江尻醫院
入院隨意　電話六九一
醫學博士　江尻伊三郎

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士　鈴木正男
（入院のお需に應ず）
（自炊の便あり）
平町田町藤田女學校前（電話五八番）